

I. 活動成果及び今後の課題

(注) 各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

(1) 活動成果
日本のウインターシーズンより一足先に雪上トレーニングを始めることができ、滑走数を増やし雪面感覚の経験値を上げる事が出来ました。
雪上トレーニングでは、基礎動作の確認から始め、現状の課題や、注意すべき点の確認も併せてゲートトレーニングに取り組みました。
主に練習を行っていたカウナタールスキー場は、各国の選手が集まっており、ヨーロッパ、韓国の選手も同時期に滞在しておりました。そのため、一緒にゲート練習を行う機会があり、自己の課題や修正を行うだけでなく、レベルの高い技術を見本に滑走するなど、自分との違い、新たな技術にチャレンジすることができました。
また、現地においても、スポーツジムを利用し、雪上だけでなくフィジカルトレーニングも併用し体力強化もできました。
12月には、国際大会であるEU CUP (ヨーロッパカップ) が開催されていたため、大会にも参戦しました。結果は25位(56人中)と30位(64人中)と納得がいく成績ではありませんが、高いレベルの選手も参加していたため良い経験ができ、今後に生かしていきたいと思えます。
自分が目指すオリンピックや、ワールドカップに出場するには、国際基準の競技ポイントが必要です。この競技ポイントは、各種大会の成績で得ることができます。そのため、活動を計画する時点においてもこの競技ポイントが得られるよう計画する必要がありますが、国内大会や近隣国で開催される大会では自国以外の選手が参加することがないため、必要な競技ポイントを得ることができない現状があり、ワールドカップなど上位大会を目指す自分には大きな課題となっています。
そのため、競技ポイントが高い(得ることの出来る)大会は、多くの海外選手が参加する大会で、例年ヨーロッパでは多くの国際大会が開催されていることから、ヨーロッパで開催される大会への出場が必要不可欠となってきます。
しかし、ヨーロッパの大会に参加することになると、国内とは違い、渡航費や滞在費など多額の費用を必要とします。今までのようにアルバイトや、両親からの資金援助、今回のような助成金だけでは、遠征資金を確保することが難しく、スポンサーなどによる資金援助のため、企業等を訪問も行っていますが、なかなか難しい状況であります。
競技に打ち込める環境を整えるため、安定した資金確保は今後の活動において大きな課題となっております。

II. 支出報告 (使途、数量等を具体的に摘要欄に記入して下さい)

費 用	金 額	摘 要
(1) 交通費	271,125 円	ヨーロッパ往復航空券 245,700 円+6,115 円
		羽田空港往復 JR19,310 円
合 計	271,125 円	

※上記に記載された支出の事実が分かる領収証のコピーを添付してください。

別紙 2 枚